



# 「深窓」に育つ工場野菜

栽培パネルに移されるレタスの苗。培養水の流れるプールで育ち、種まきから45日に出荷される

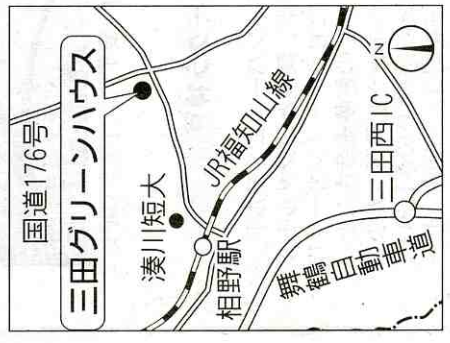
## はんとや



写真・文 山田哲也

47

### 三田グリーンハウス



太陽と土の恵みで育つ野菜が工業製品のように工場で作られている。天候不順や生産過多の影響で価格が乱高下する中、一定品質の「工場野菜」が注目されているのだ。

鉄鋼大手JFEグループ傘下JFEライフの三田グリーンハウス(三田市東庄本真勝谷)では、コンピューター制御で温度や湿度、日照量が保たれた全面ガラス張りの工場でレタスが「ずくずく」育っている。

工場野菜は雑園が入らないように管理された室内で、肥料が入った培養水を使い、無農薬で栽培した野菜をいう。

工場内には白衣、帽子、長靴を着用しエアシャワーで雑園を落としてから入る。内部は日中25度、夜間は18度に保たれている。

発芽室で身を出したレタスの苗は穴のあいた発泡スチロールの栽培パネルに移動され、パネルは培養水流れるプールに。レタスはガラス越しに太陽光をいっぱい浴びて成長する。種まきから約45日に出荷だ。

同ハウスは「フリルアイス」や「グリーンマリゴールド」、寿司のちらし煮みに使われる「ピエヴェール」など種類多しのレタスを水耕栽培し、月間15万パックを「エゴ作」のブランドで出荷している。コアコラブ、大丸ヒコックで1袋200円前後で買える。